

第 7 1 回小金井市市民参加推進会議

日 時 令和 6 年 1 1 月 2 7 日（火）午後 7 時 0 0 分～午後 7 時 5 5 分

場 所 小金井市役所第二庁舎 8 階 8 0 1 会議室

出席委員 8 人

委員長 繁 田 進 委員

副委員長 金 尾 悠 香 委員

委 員 岡 田 一 美 委員 南 貴 之 委員

山野井 礼 奈 委員 橋 田 壤 志 委員

中 村 彰 宏 委員 北 村 高 委員

欠席委員 4 人

須 藤 夏 生 委員 中 村 真 子 委員

鴨 下 明 子 委員 水 落 俊 也 委員

事務局職員

企画政策課長 富 田 絵 実

企画政策課係長 中 島 広 樹

企画政策課主事 樗 木 紗 矢

企画政策課主事 金 信 沙 樹

傍 聴 者 1 人

（午後 7 時 0 0 分開会）

◎**繁田委員長** それでは、第 7 1 回市民参加推進会議を始めさせていただきます。

本日の委員の欠席の御連絡についてですが、鴨下委員、須藤委員、水落委員、中村真子委員から欠席の連絡をいただいております。山野井委員、中村彰宏委員から遅れるとの連絡をいただいておりますので御報告いたします。定足数につきましては市民参加条例施行規則第 2 4 条に、半数をもって成立することとなっております。本日、1 2 名中 6 名の御出席をいただいておりますので、本推進会議は成立しているということで御報告申し上げます。

本日は第 9 期市民参加推進会議の最後の開催日になり、白井市長が出席しておられます。我々が令和 4 年 1 2 月から約 2 か年をかけてまとめてきた提言を、1 0 月 2 9 日に市の方に提出しております。本日、白井市長から提言に対する市長意見をいただき、その後委員一人一人からコメントをいただく時間をと考えております。

それでは、まず配布資料について、事務局から確認をお願いします。

◎**事務局** それでは資料の確認をいたします。本日の資料は、次第、資料 1 「第 9 期小金井市

市民参加推進会議提言」、資料２「市民参加条例第２７条第１項の規定に基づく提言に対する市長の意見」、資料３「第１０期市民参加推進会議の構成について」の４点になります。配布漏れ等はありませんでしょうか。

◎**繁田委員長** ありがとうございます。

◎**繁田委員長** それでは、次第１「提言の受け渡しについて」を議題といたします。事務局から、内容の説明をよろしくお願いします。

◎**事務局** それでは、資料１「第９期小金井市市民参加推進会議提言」を御覧ください。こちらは第９期市民参加推進会議でまとめていただいた提言となります。

先日、１０月２９日（火）に正副委員長に御参集いただき、委員長から直接、小金井市長に提言書が手渡されてございます。当日は、事務局も同席させていただきました。その後、意見交換を行ったのち、１３時２０分頃に散会してございます。当日の様子につきましては、以上です。次第１についてはこれで終了です。

◎**繁田委員長** ありがとうございます。事務局の説明が終わりました。

◎**繁田委員長** それでは、次第２「提言に対する市長意見について」を議題といたします。まず、事務局から説明をお願いします。

◎**事務局** それでは資料２「市民参加条例第２７条第１項の規定に基づく提言に対する市長の意見について」を御覧ください。

小金井市長 白井 亨

市民参加条例第２７条第１項の規定に基づく提言に対する市長の 意見について

令和６年１０月２９日付けで市民参加推進会議（以下「推進会議」という。）から提言のあった「若者等サイレント層の継続的な市民参加について」に対し、市民参加条例第２７条第２項の規定に基づき、下記のとおり市長の意見を公表します。

記

１ 情報発信・広報の精査

激化する地域・都市間競争のもと、小金井市の活力を維持・拡大していくためには、社会の変化に柔軟に対応し、小金井市の魅力を再構築していくことが大切だと考えており、そのために必要なのは、情報発信・広報です。

情報発信については、令和５年１２月にコミュニケーションアプリ「LINE（ライ

ン)」上に公式アカウント (@koganeicity) を開設し、サービスを開始したところです。
現在の登録者数は約 8,700 人となっています。

市報については、令和 6 年 8 月 1 日号より全面的なリニューアルをしました。23 年間掲載していたタイトルデザインを一新し、横書きを基調とする、写真やイラスト、図表が映えるよう全ページフルカラー印刷とするなど、読みたくなる市報を目指して作成しています。

市として、広報媒体の拡充やリニューアルを進めてきたところではありますが、行動変容につながるような伝わる情報発信に対する職員意識を高め、全庁的な戦略的広報に取り組んでまいります。

2 市民参加の裾野を広げるために

① サイレント層へのアプローチ「0 から 1 へ」

推進会議の提言でもいただいたとおり、市民参加の出発点は、知らない人に知ってもらうところだと考えます。狙いを踏まえた分類及び対象に応じたコンテンツ作成を行い、参加していただきたい年齢層や属性へ重点的に呼びかけるとともに、幅広い市民の方へ情報を届けられるよう努めてまいります。

また、市の事業への申込みやアンケート等を実施する際には、Web 申込みや二次元コードを積極的に活用するなど、市民目線の配慮を行うよう庁内周知を図ってまいります。

② 継続的な市民参加「1 から発展的拡大へ」

市ホームページにおいては、情報の発信・公開に取り組み、開かれた行政運営を進めるとともに、委員公募をはじめとする市民参加に関連のあるページを整理し、市民参加の拡大と循環に向けて、参加・応募の際の判断材料となるような情報を掲載することで、興味・関心の惹起につながるよう、工夫してまいります。

その際は、推進会議の提言を踏まえ、参加・応募の際の興味・関心度によらず、より多くの市民が参加しやすく、より闊達な議論の場となるような市民参加方策を検討してまいります。

③ 当事者意識の醸成、市民と市の協働に向けて

市民参加機会における対象に合わせたインセンティブ付与については、近隣自治体・先進事例などを研究し、前向きに検討してまいりたいと思います。

推進会議の提言でもいただいたとおり、市と市民、多様な主体が良好な協力関係を構築し、協働でまちづくりを進めていくこと、その中でも次世代を担う若者世代との協働は市政運営において特に重要な課題であると認識しております。

いただいた提言の内容を参考に、各附属機関や計画策定の際などの若者等サイレント層の市民参加拡大につながるような方策の研究・検討に努めます。

今後も、「みんなで進める まちづくり」の推進に向けて、全庁的に取り組んでまいり

ますので、推進会議の委員の皆様には、引き続き御協力のほどよろしくお願い申し上げます。

この市長意見に関しましては、市ホームページ等で公開いたします。

◎**繁田委員長** ありがとうございます。我々からの提言に対する市長からの意見が公表されました。これを受けて、皆さんから御意見がございましたら御発言いただきたいと思います。

◎**岡田委員** 情報発信・広報の精査というところで、令和6年8月1日号より市報がリニューアルしたとありました。このことについて、とても素敵だと実は思っておりまして、リニューアルを機に見やすくなって、目を引きやすし、他のチラシなどとの差別化を図ることができているので、主人と「見やすいね。市長が変わると色々変わるのかな。」などと話していました。こういう部分では若者世代の興味を惹きやすくなったと感じます。フルカラー印刷で、今までのデザインと異なりますので、大きなリニューアルを行いたかったのだと考えました。

◎**白井市長** ありがとうございます。実は、市報の担当である広報秘書課にも、市報が良くなったという御感想をいただいております。リニューアルは、まずデザインが改善されました。具体的には、縦書き・右開きだったものを横開き・左開きに変えたこと、全ページフルカラーとしました。

また、市報は毎月1日と15日の計2回発行しているのですが、15日号を特集号としています。市報を読み物として読んでいただきたい、市政を自分事化していただきたい、多くの市民の方々に、今市が何に取り組んでいるのか知っていただきたいという背景がございます。次のフェーズとしては、地域で活動している団体の取組などを紹介するというようなことをやっていきたいと思っています。

今、福祉をはじめとして、様々な分野で担い手が不足しています。人手不足を理由に、NPOが解散するなど、そのようなことが各所で起こっています。元々住んでいる地元の人が少なくなったなど背景は色々ありますが、新たに小金井市に転入してきた方でも、自分の住む地域のことを自分のこととして考え、行動変容を起こすためには、そういういろんな工夫をして情報発信をしていかないといけない、そのように思っております。そういうことも含めて、単に市報が見やすくなっただけで終わらせることなく、本当に提言にいただいているとおり、一歩行動に踏み出していただくためには、まずはこちらが発信している情報が分かりやすくないといけない。パブリックコメントや市民アンケートなどで御意見をくださいと聞かれても、今、市で何に取り組んでいるのか、どんなことをやっているのか知らないことには意見を出せないわけですね。まずは、市として何に取り組んでいるのか、できるだけ分かりやすく市報で伝えるとともに、市政を自分事化して、一歩踏み出す行動変容を起こすきっかけのツールの一つになることを期待して、市報の全面リニューアルを行いました。長くなりましたが、以上です。

◎**繁田委員長** そういう機会でございます。お褒めの御言葉をいただいたとのことでした。

◎**中村委員** 私も岡田委員と同様ですが、市報を拝見して、以前より読みやすく、分かりやすくて良くなったと思いました。感想ではなく質問ですけれども、編集については業者に委託さ

れているということでしょうか。

◎**白井市長** おっしゃるとおりです。基本的には市報の作成を委託している事業者をお願いしていて、先程申し上げた特集を組んでいる毎月15日号だけは、見開きのところまで編集とデザインを委託しているという形になります。

◎**中村委員** 予算を使つての費用対効果ということですが、効果がその費用を上回るのであれば、そういう良いことはお金がかかってもどんどんやっていかれるっていう姿勢は非常によろしいのではないかなと思います。

◎**白井市長** ありがとうございます。実は、市民レポーターのような方に取材や編集をお願いするような、その人たち自身がプレーヤーになるような仕掛けも良いねという話はしていましたが、まずはできることから始めました。市報に関わる人自身が自分事化できるという、そういう二次的な効果もありますので、いずれはそういう仕組みも検討していきたいと思っていますところですよ。

◎**中村委員** 結局それも一つの市民参加ですよ。市民レポーターを経験した学生が将来マスコミに就職するきっかけになったりすると思います。

◎**白井市長** あとは、小金井市の観光まちおこし協会が書いているまろん通信というブログについてです。市民レポーターがイベントなどの取材をしてブログにまとめているのですが、これが大変秀逸な仕組みになっています。市が実施した事業や取組について、それがどうだったかということをしっかりフィードバックをしないともったいないと思っておりまして、そういうあたりを今後参考にしていきたいと思っていますところですよ。

◎**中村委員** 私の知り合いは市民レポーターをやっています。

◎**繁田委員長** 市長意見の中でも、近隣の市町村の取組を参考にしていこうと書いてありますよね。近隣自治体の先進事例などを研究し、検討していただくということです。いろいろとお話をありがとうございます。

◎**金尾副委員長** 市長の御意見をお伺いして、市民参加推進会議は今回で9期ですけども、これまでの提言も含め、不断の努力でお応えいただいているということがよく分かりました。あと、中村委員の御意見の中で出ていた事業者の取扱いという話が出ましたが、昨今、SNS戦略の在り方が話題になっておりますし、今期での若者MIRAIトークも運営に際して御協力の事業者がいらっしゃったかと思います。小金井市は、様々な方々の御協力を得ながら、それから市民の意見もきちんと取り入れて、これが循環するスタイルで透明性高くやっていただけることを強く期待して、市民参加を進めていくことができれば良いなと感じました。

◎**繁田委員長** はい、ありがとうございます。私達の年代は新聞のニュースを信用しているのですが、若い世代はSNSから情報を取り入れているそうですね。そういったことから、学生と話をしていると見解が違うことが結構あるのですが、そちらの方も勉強しないといけないなとつくづく感じている今日この頃でございます。

市長におかれましては、若者の意見を取り入れて、本当に様々な世代の人に対応されている

と思いますが、0から1、1から発展的拡大という言葉を引き用いただきまして、感謝をしております。

◎**繁田委員長** それでは次第3「第9期市民参加推進会議のまとめ」を議題としたいと思います。

最後の会議となりますので、委員の皆様から今期の市民参加推進会議の感想や今後の行政への期待、第10期となります次期市民参加推進会議への申し送り事項など、1人2、3分程度でお話いただけますでしょうか。金尾委員から時計回りに一言いただきまして、最後に市長からコメントをいただきたいと思います。

◎**金尾副委員長** 今期は約2年の間、委員の皆様、委員長、そして事務局の方、それから最後に市長からのフィードバックもいただき、様々な御意見をお伺いできて、このように自治体が動いていき、自分たちの意見が反映されるんだなというように感慨深く拝見しておりました。大変有意義な時間を過ごせたと思っています。どうもありがとうございます。

◎**繁田委員長** 金尾副委員長には提言をまとめていただきまして、ありがとうございました。

◎**南委員** 私も8期から合わせて2期にわたって参加させていただきました。僕は市民団体代表という枠で参加させていただいているのですが、普段中々できないような貴重な経験をさせていただきまして、多くの学びがありました。今後も、無作為抽出であったり、公募市民であったり、そういった機会で自分の力が少しでも出せるのであれば、また参加していきたいという思いも芽生えました。ありがとうございました。

◎**山野井委員** 私は任期の途中からの参加でした。無作為の通知が来て、初めは正直何をしているのかなという感じでしたが、実際に若者MIRAIトークを開催したり、若者が行政に関わるための仕組みについて話し合いをしていたり、そういうことに驚いたというのが感想です。若者がどうしたら市政に興味を持つかということを考えたときに、私自身もずっと小金井市に住んでいるのですが、正直全然興味がなく、市報も読んでいなかった。ですが、最近は市報を読むようになって、こうやって地域に参加していくのだなという実体験がありました。やはり、まずは知るということが大事なのかなと思うので、小さいことですが、私も少しずつ周りに伝えていくなど、そういう地道なできることからやっていこうと思いました。

◎**岡田委員** 今期で最後になりますが、3期にわたって参加させていただきました。私も無作為抽出のお知らせをきっかけに参加しまして、当初は推進会議とは一体何なのかというような、山野井委員と同じ感じで始まり、小金井市も転勤を機に住み始めたため土地勘などもなかったのですが、市民参加推進会議というのが長年あって、第1期から市民参加について色々考えられているということについて、最近はきちんと分かったような気がします。

あと、若者向けのワークショップについても、実際にやってみたら良いのではないかといいところから始まって、第9期推進会議の中でそれが本当に実現できたということはとても嬉しいなと思っています。本当に委員長、副委員長のおかげというか、この提言をまとめること

も、ものすごく大変な作業だろうと本当にいつも感じていました。

また、市長は市民参加推進会議の委員だったということを聞きました。若者の方も、市民参加推進会議の委員に加わって、未来の市長ではないですけど、本当にそういう何か後継者が出てきたら良いなと私自身も感じています。皆さん、本当にとても良くしていただいて、普通の主婦がこういう場に呼んでいただけるっていうのは中々ないことでして、自分の中でもみんなで何かを成し遂げるというようなことは普段生きていてあまりないです。けれども、こうやって、様々なキャリアをお持ちの方々と顔を合わせて、何か一つのものを作り上げるという経験ができたこと、とても感謝しています。ますます発展していただければと思っております。ありがとうございました。

◎中村彰宏委員 私は市民団体代表枠ということで、3期参加しました。その間、私の場合よく話が長くなってしまいうにも関わらず、委員の皆様におかれては辛抱強く聞いていただいて、本当に感謝しております。私がいろいろ申しました件の中で、特に言いたかったことは、やはり声高に言う人は聞かなくても意見を言うわけでありまして、そうではない人々のその声を吸い上げるような仕組みというのが市政において重要ではないかということです。サイレント層と申しましたけれども、サイレント層にスポットを当てて、いかに意見を吸収するかということとを提言にまとめていただいて本当にありがとうございました。

私としては、これまでの今期の議論が提言に終わらずに、実際に実行されるよう願っております。是非その辺り、市長よろしくお願い申し上げます。できることとできないことはあると思うのですが、せっかくこうして時間を費やして論議した訳ですから、それをいくらかでも市政に反映させていただき、実行していただくことを願ってやみません。

◎北村部長 今期で私は最後となりますけれども、約2年間にわたり、皆様にお世話になりました。本当にありがとうございました。私は総務部長として、実は防災を所管してございますので、来たる大震災を考えますと、地域の強い結びつき、そしてそれから市民が支え合う関係づくりが何より大事だと思っております。そういう意味でも、この会議でメンバーとして参加させていただきまして、こういった貴重な御意見をお伺いできたこと、大変ありがたく思っております。

また、若者MIRAIトークの実施を通して、参加された若者の方の意識が変化していく様子を見させていただきまして、我がまち小金井市の可能性と、それから希望を感じさせていただいたと思っております。本当にありがとうございます。委員の皆様には今後とも引き続き、市民参加推進のために御協力をお願いします。本当にありがとうございました。

◎橋田委員 私は出身が九州で、それから神奈川県や東京都の他の区に住んで、住んでいる期間としては小金井市が一番長くなりました。やはり住みやすいところだなということが正直な感想です。今期で一番印象に残っていることとしては、やはり若者MIRAIトークが一番印象に残っています。市政というと堅苦しい印象がありまして、学校の職員室に呼ばれるような感じがして、何だか市役所に行くだけで少し緊張するのですが、それをカジュアルな印象にな

るように、ちょっとユーモアを交えて、専門的な用語とかを使わなくてもみんながリラックスした雰囲気で話し合えるということを知ることができて、それが非常に今までと印象がガラッと変わって良いなと思いました。今後もこういった取組を続けていくと、少しずつですが、興味があって、自分もこういうのだったら参加できそうだという人が増えていくのではないかと考えております。それが一番印象に残りました。皆さんの色々な意見を聞いて、非常に勉強になりましたし、本当にありがとうございました。

◎**繁田委員長** 若者MIRAIトークを実施して、小金井市の若者が結構色々な意見やアイデアを持っていることが分かって、嬉しかったです。ワークショップに参加することで、本当に意識があれだけ変わるという、この市民参加推進会議もそうですけれども、全く知らない人同士が、あれだけ活発に議論ができる、そういう意味では、小金井市は本当に良いところで、非常にアットホームな市だなと感じました。ありがとうございました。それでは、最後に白井市長より一言お願いいたします。

◎**白井市長** まず、皆様、この第9期市民参加推進会議の委員として、2年間、誠にありがとうございました。本日11月27日は、私が市長になってちょうど2年という日です。先ほど御紹介いただいたように、私自身が一市民だったとき、第4期市民参加推進会議の市民公募委員として、自分で応募して審議会に参加しました。その前は、市としては初めての審議会である市民協働の在り方等検討委員会という審議会に委員をしておりました。私自身この経験が非常に大きく、参加と協働、これは小金井市としてもしっかり考えていますが、政治に関わる立場となって、参加と協働を柱にして、更にそれを主として進めていくことが大切だと思うようになりました。

私は当時、民間企業で働いていました。35歳位の時、小金井市に住んでちょうど5年ぐらいのときでしょうか。公募していた審議会の委員に応募したことがきっかけで、市政に関わるようになりました。

私が元々住んでいた大阪府もそうでしたが、行政というものはそこにあるけど、自分の人生がそこに関わるとは全く思っていなかった、そのような認識だったのですが、いざ審議会に委員として入ってみると、市政は全く関係がないものではなくて、市民参加で行政と一緒に作っていくということを私自身が強く実感し、自分が住むまちのことに對して自分の意見を言っているんだということ、自分が言ったことが少しでも何か反映できるということが分かって、市政のことが知れば知るほど面白かったんですね。しかし、行政だけで多様なニーズに応えるというのは難しいとも思っていました。今後はより一層、一人一人が自分の住んでいる地域に関わっていくという文化をもっとつくり、協働を進めていくべきという私なりのビジョンがそのときにできました。このことは今でも思っておりますし、これから行政としてしっかりやるべきことはやらないといけないのですが、やはり市民の皆さんと一緒に市政運営をやっていく仕組みをどうやって作っていくか、これが鍵となると思っております。今回提言をいただいて、それに対する意見というの、先ほど紹介をさせていただきました。非常に重要な視点で情報発

信から、結局 0 から 1、1 から発展的拡大ということでストーリーになっていて感銘を受けたところであります。

御提言いただいた内容をしっかり受け止めつつ、また、第 9 期のこの提言だけではなく、これまでいただいた提言でも、まだ実現できていないこともありますので、改めてそういったことも含めて、これから更に市民参加を進めていけるまちにしていくべく、できるところから市として取り組んでいきたいと思っております。2 年間本当にありがとうございました。

◎**繁田委員長** ありがとうございます。以上で次第 3 を終了いたします。

◎**繁田委員長** それでは次第 4 「第 10 期推進会議の委員の募集について」を議題といたします。事務局よろしくお願いします。

◎**事務局** はい、それでは資料 3 「第 10 期市民参加推進会議の構成について」を御覧ください。

市民参加推進会議の構成は、市民参加条例第 28 条に定められております、市民 5 人、市民団体代表 3 人、学識経験者 2 人、市職員 2 人という構成となっております。今期は市民公募委員 5 人のうち 3 人の方を公募、2 人の方は無作為抽出で選出し、委員をお引き受けいただきました。

無作為抽出による委員の選出は、第 4 期の推進会議で御提案いただいた方法で、市の審議会や委員会にはあまり関心を持っていただいていない方の多い若い年齢の方に直接参加をお願いできるという効果があります。一方で、第 6 期の推進会議では、無作為抽出の枠を増やすことは、若者などの参加を促す反面、参加したい人が参加できなくなるという意見もありました。

無作為抽出の割合について規定はありませんので、例えば公募を 2 人、無作為抽出を 3 人と変えることも可能ではありますが、事務局といたしましては、9 期に倣い、無作為抽出の枠は 2 人としたいと考えております。次に、今後の予定につきまして簡単に御説明いたします。

令和 6 年 12 月 20 日まで次期第 10 期市民参加推進会議委員の市民枠および市民団体代表枠の方の募集を行い、令和 7 年 1 月頃、市民公募委員の無作為抽出による募集を実施し、令和 7 年 2 月頃までに委員の決定を行う予定でございます。説明は以上でございます。

◎**繁田委員長** 事務局の説明は終わりました。何か御意見などございますか。

特に、無作為抽出を機に参加された方、無作為抽出の通知が来たときの感想はどうでしたか。

◎**山野井委員** 私は小金井市から初めて手紙が来て、何かしてしまったかと思って、驚きました。あまり中身を読まずに応募しました。

◎**岡田委員** 我が家はアンケートやお知らせが結構来るんですね。当時は、小金井市に引越してきたばかりで、小金井市のことを全く知らなかったのも、ちょっとやってみようかなという気持ちでした。

◎**繁田委員長** なるほど、良い機会だなという方もいらっしゃると思います。市長もそうですね。

◎**白井市長** 私は自分で申し込んだのですが、皆さんおっしゃっていただいたように、市政に

ついてあまり知らなかったんですね。そんな状況で審議会に入って、最初はやはり勇気がいりました。自己紹介が仕事の話しかできなくて、小金井市の紹介が何もできない、そんなところから始まりましたが、やってみたら非常に面白かったなという感想でした。

◎**繁田委員長** 今、市長を務めていらっしゃいますからね。今回も若者M I R A I トークをきっかけに、また応募者が増えるかもしれないですね。他に何か意見がございましたらお願いいたします。

それでは、2年にわたり熱心に御議論いただきましてありがとうございました。以上を持ちまして、第71回市民参加推進会議を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

(午後7時55分閉会)